

② [1]主義

… 普遍的・客観的真理よりも **[2]的真理** を重視し、「今、ここ」を生きる現実的・具体的な個別者としての在り方 (= [3]) を大切にする
個別的 (自分ならではの) で一回的 (今だけ)

的な個別者としての在り方 (= [3]) を大切にする

cf. 現代社会の非人間性が背景 ex. 平均的で画一的。組織の「歯車」化

(1) 有神論的実存主義

1 [4] (19C、デンマーク) (『[5]に至る病』)

— 実存の三段階

H : [6]的実存 (享樂的に生きる) … 「あれも、これも」 → むなしさで絶望

S : [7]的実存 (道徳的に生きる) … 「あれか、これか」 → 限界にぶつかり絶望

J : [8]的実存 (信仰に生きる) … 神の前の[9]者として生きる

2 ヤスパーズ (19・20C、独)

a [10]状況 (ex. 死・苦しみ) にぶつかり挫折・絶望

→ 自己の有限性を自覚 → 包括者 = 超越者 (神) を感得

b 実存的[11]… 愛しながらの闘い ex. 私の敵こそが私を誰よりも理解する者

(2) 無神論的実存主義

1 [12] (19C、独) (『[13] (はかく語りき)』)

a 「[14]は死んだ」… キリスト教を **奴隷道徳** として否定

受動的ニヒリズム (= ネガティブなニヒリズム)

b [15]… 主人道徳 (英雄道徳) としての[16]への意志に生き、

能動的[17] (= ポジティブなニヒリズム) で「**善悪の彼岸**」にある

虚無 (ニヒル) を徹底することによりそれを克服すること 善と悪を超越した段階

新しい価値を創造する「**新しき人**」

c ^{えいごう} 永劫回帰と[18]愛

… 「意味・目的の無い繰り返し = 人生の現実」を積極的に引き受ける生き方

ex. 「なんて辛い人生。でもこの人生は、何度でも繰り返して生きる価値がある」

… 「自分ならではの」で「今だけ」の生にこそ価値がある。それが幸福ならばそれにこしたことはないが、たとえそれが不幸であったとしても。

だから、それを永劫に繰り返すこと = 逃れられない自分の運命を愛することこそが人間的に生きるということ。

MEMO etc.